



# 第4回 第八期中海自然再生協議会 ステークホルダーによる 認定NPO法人自然再生センターの評価 2023年2月18日(土) 自然再生センター事務所

寄付  
キャンペーン  
実施中!



認定NPO法人自然再生センター  
理事 毛利 葉

認定NPO法人自然再生センター〈目的〉  
住民・企業・行政・専門家等が連携し、  
中海・宍道湖を含むこの流域の自然環境  
の再生と、かつての湖と人々の親しい関係  
を再構築するための活動を行うことにより、  
豊かな恵みを感じられる持続可能な社会  
の実現に貢献すること

中海・宍道湖の自然再生

人と水辺を結び直す!

# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉①

## 2022年度事業

(1) 中海・宍道湖及びその流域の自然再生及び環境保全に関わる事業

・水草刈り・生き物調査、海藻類の利活用

①海藻オゴノリ  
を畑の土壌改善  
にする取組  
〈自主事業〉

環境・ひと・経済が循環する  
持続可能なモデルの構築を目指す  
オゴノリング  
〈ローカルSDGs〉



# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉②

## 2022年度事業

### (2) 中海自然再生協議会の支援事業

#### ・協議会の運営

### (3) 汽水域の自然再生及び環境保全に関わる事業

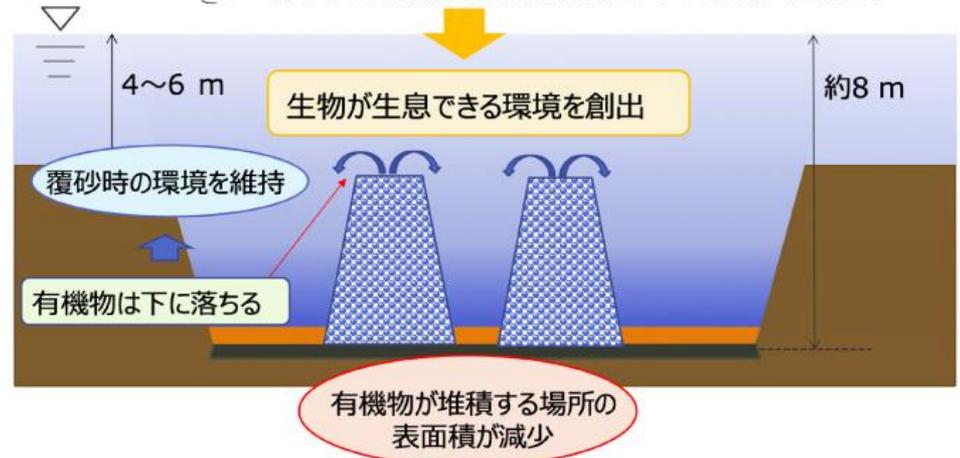
#### ・中海浚渫窪地の環境修復実証事業

②海の底をきれいにする「中海浚渫窪地の環境修復事業」  
〈中国電力からの受託〉



新たな覆砂形状 : 山形 (マウンド状) 覆砂 → Hiビーズ露出面が増加

- ▶ 期待される効果
1. 有機物堆積の表面積減少 → 栄養塩・H<sub>2</sub>S溶出抑制効果
  2. マウンド上の有機物堆積が減少 → 覆砂時の環境を維持
  3. マウンドは溶存酸素が供給されやすい水深に近くなる



# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉③

## 2022年度事業

### (4) 自然再生に関わる人材育成事業及びアドバイザー事業

- ・次世代につなぐ環境学習、学生インターンシップの受入 等



ローカルSDGs  
担い手育成研修



# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉④

## 2022年度事業

### (5) 自然再生及び環境保全に関わる広報及び情報交流事業

#### ・中海・宍道湖の食を広めよう会、HP・SNS等による発信



〈テレビ出演〉  
松本一郎  
理事長  
BSSの  
SDGs解説者



〈テレビ取材〉  
なかみちゃん



今回のテーマ

中海・宍道湖を未来につなぐ  
～認定NPO法人自然再生センター～

# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉⑤

## 2022年度事業

### (5) 自然再生及び環境保全に関わる広報及び情報交流事業

#### ・視察受入・講演活動、まちiテラス(MiT)・講座



オンライン講座  
(サイエンスカフェ)  
テーマ：海洋酸性化  
講師：木元克典氏

JAMSTEC海洋生態系動態変動研究グループ  
主任技術研究員



# 認定NPO法人自然再生センター〈事業〉⑥

## 2022年度事業

(5) 自然再生及び環境保全に関わる広報及び情報交流事業

### ・プロボノPJ (Panasonic、富士通)

Panasonicプロボノ  
2022年7～12月  
〈マーケティング基礎調査〉

富士通プロボノ  
2023年1～4月  
〈企業との連携強化〉



# 認定NPO法人自然再生センターのこれまで

2000年 中海・宍道湖の干拓淡水化事業の凍結(2002年事業中止)

2005年11月 中海・宍道湖がラムサール条約に湿地登録

## ・2006年4月 自然再生センター設立

→2006年8月 自然再生センターの呼びかけにより、設立準備会が開催される。

→2007年6月 中海自然再生協議会設立→NPO法人自然再生センターが事務局を担う。

## ・2007年4月 NPO法人自然再生センター設立(内閣府認証)

## ・2013年1月 山陰地方初の認定NPO法人(島根県認定)

2014年~2016年 Panasonic NPOサポートファンドの助成を受け、理事会改革など「組織基盤の強化」に取り組み、ミッションを再定義。

## ・2022年1月 グッドガバナンス認証 (公財)日本非営利組織評価センター

## ・2022年7~12月 Panasonicプロボノ (マーケティング基礎調査)

2018年1月・2023年1月 認定NPO法人として更新(2回) → 認定から10年

## ・2023年1~4月 富士通プロボノ (企業との連携強化)

## ・2023年1~2月 認定10周年記念寄付キャンペーン

「中海・宍道湖の自然再生 人と水辺を結び直す」



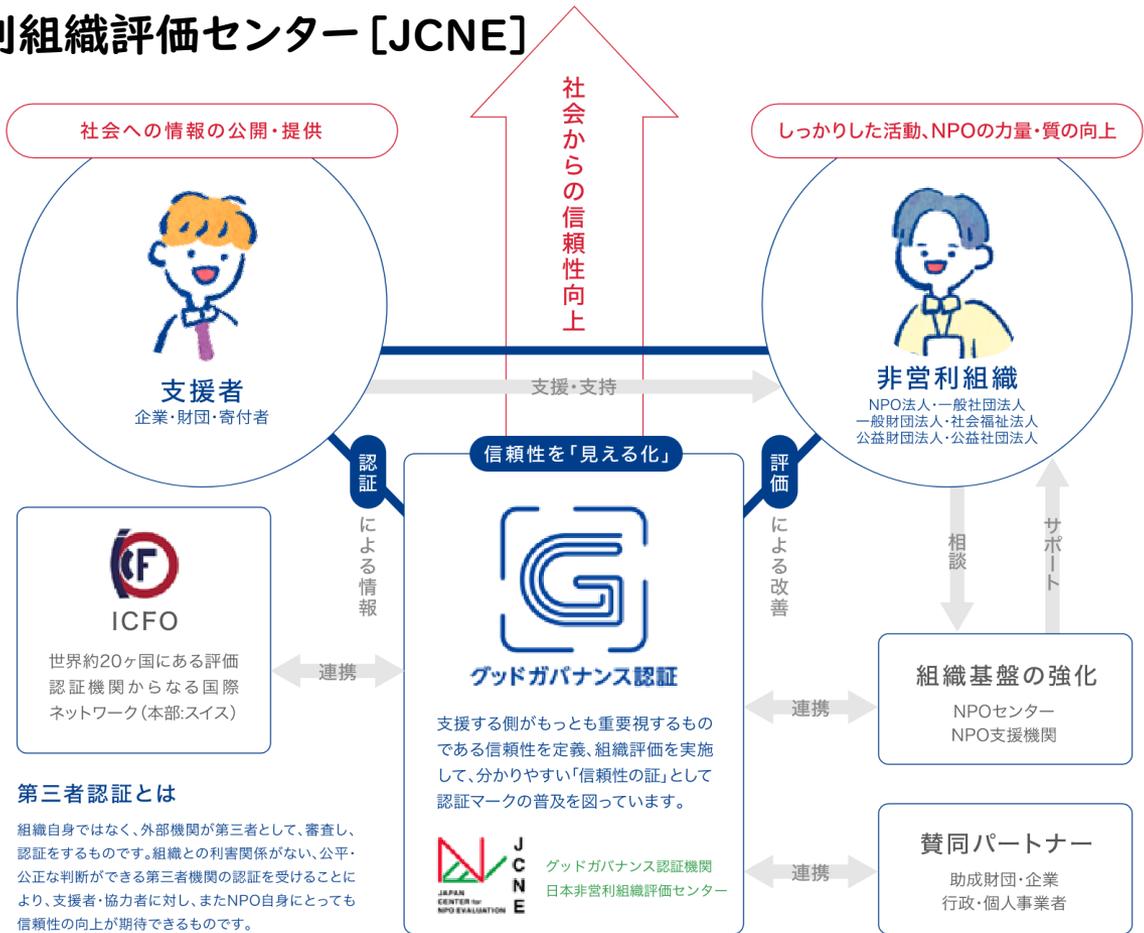
グッドガバナンス認証

# 信頼性を“見える化”する「グッドガバナンス認証」とは

〈評価認証機関〉(公財)日本非営利組織評価センター [JCNE]

市民参加の度合い、環境への配慮、財務会計、社会への情報発信等、組織運営に関わる27の評価基準を書面・訪問で審査。さらに外部の有識者からなるグッドガバナンス認証審査委員会の審議を経て認証された。

企業や行政などが非営利組織と連携するときの一つの信頼性の指標として、一定水準以上の組織運営能力が認証される。



日本非営利組織評価センター (JCNE) は、非営利組織の組織評価を行う日本で初めての第三者審査機関です。

→「メルカリ寄付」の寄付先・“サーキュラーエコノミー(循環型経済)・リーダー”として選定。  
遺贈寄付の受遺団体として紹介。プロボノ(富士通)の支援団体として選定。

# Panasonic職員による「プロボノプロジェクト」

【最終成果物】 **マーケティング基礎調査** 【期間】 **2022年7～12月**

【プロボノワーカーの作業時間目安】 **一人当たり平均週5時間**

【主目的】 現在取り組んでいる活動が、**地域住民、参加者、支援者（ステークホルダー）**から、**どのように受け止められ、どのように評価されているのか**をリサーチ  
→ **今後の事業戦略作成に使える資料を作成**

## 【作業内容】

- ・役員、正会員、賛助会員、参加者に対して、**アンケートやヒアリング調査**を行い、**運営状況（経営戦略、組織文化等）**や参加に至った**影響要因等**について整理
- ・共感者、参加者の増加等に向けた**施策**について取りまとめ
- ・調査内容をまとめ、今後におけた**ワークショップ**の実施→**2月19日（日）**

## 【成果指標】

- ① **学校や企業からの問い合わせ**が増加する。
- ② **寄付者や賛助会員（個人・団体）、イベント参加者**が増加する。
- ③ 団体が目指す**循環型社会**について**理解**し、活動に**賛同**する人が増える。

# アンケートの調査概要①

・期間 10月16日～11月9日

・対象者 64名

・満足度 (10段階) 理事 (平均9.00)、理事以外 (平均8.25)

「NPO」「楽しい」「連携」「参加」といったキーワード

・親しみ (10段階) 理事 (平均9.40)、理事以外 (平均8.07)

「中海の自然」「感じる」「環境」「小倉さん」といったキーワード

\*理事の人柄や地域に密着した活動に親しみを感じている。

一方、行政との関わりが浅いのでは。

・強み ①**研究者**と一緒に活動している。

②**認定**を受けている (認定NPO法人)。

③**活動目的**がはっきりしている。

# アンケート：回答者属性 1

関係者の属性、年代で満遍なく回答を得ました

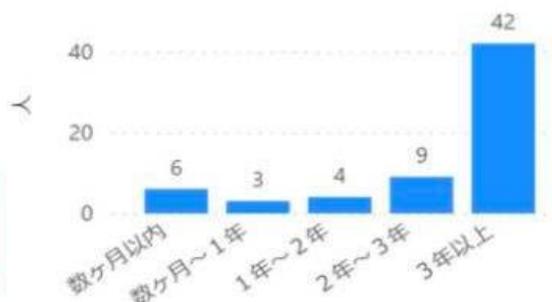
回答者数

64

性別 ● その他 ● 女性 ● 男性



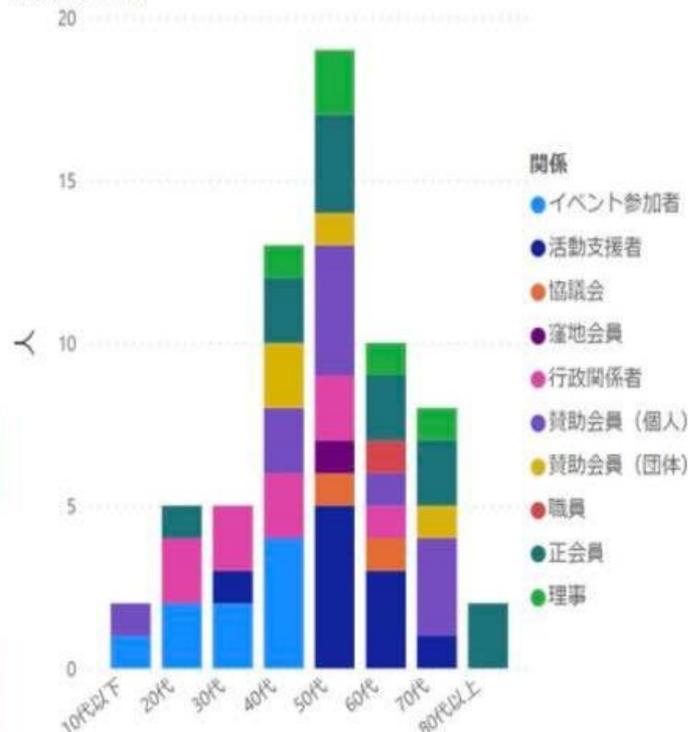
センターとの関わりの期間



属性と年代



● 10代以下 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代 ● 70代 ● 80代以上







## アンケートの調査概要②

### ・イベントの満足度

食を広めよう会、視察・講演を選択する人が多く、寄付、畑作業（サツマイモや大豆）、海藻類の回収・活用事業が続く。

### ・今後の希望イベント 「中海」「環境」「地域」「子供」といったキーワード

- ・中海の環境がよくなっていることが実感できる体験イベント
- ・学校の先生や生徒が参加する環境保全や環境学習
- ・継続した活動（地域・子どもが参加できる交流の場）

### ・思い出のイベント 「中海」「オゴノリ」「収穫」「食」といったキーワード

- ・中海の食を広めよう会での多種多様な食事、交流・出会い
- ・オゴノリング活動をしている想い触れることができた
- ・種蒔き・苗植え、そして成長して実をつけ、収穫できたときの感動
- ・中海の自然再生に奮闘している姿

# アンケート：希望イベント

中海, 環境, 子ども / 子供といったキーワードが多い



## <コメントの例>

- 中海の環境が良くなっていることを実感できるような体験イベント
- 複数の異なる学校の先生や生徒が環境保全や環境学習に関わるイベント
- 継続した活動(地域・子どもが参加できる交流の場)



# アンケートの調査概要③

## ・イメージ

「活動的」「未来を考えている」「親近感がある」「前向き」など

## ・賛同すること

「**中海・宍道湖の環境保全活動**」に賛同する人がダントツ多い。

「**子どもや住民の環境教育、自然のふれあう機会の提供**」は理事の賛同が多い。

「**住民と一体となった活動**」「**地元の食文化を広める活動**」なども、理事・理事以外問わず一定の支持がある。」

## ・協議会への理解（理事以外）

・センターが協議会の実施者・事務局と知っているのは **8割**

・5年毎の計画立案・事業推進の認知度は **5割**

・全く知らないのは **1割程度**

# アンケートの調査概要④

## ・情報収集する媒体比較（理事以外）

センターに関する情報取得と普段利用する情報取得の手段

・一致し、全体の数も多い → facebook / HP

・手段が不一致の人も、一定数ある

→ インスタグラム、TV、新聞、Twitter、ニュースサイト

## ・発信に対する受け止め（理事以外）

・チェックは、週1回の回答が最多

・発信の量・質の評価（10段階） 8が多い。

・日々のfacebookでの発信が、センターの明るく開かれた雰囲気、活動していることが伝えられている。

・「研究成果をわかりやすく伝えてほしい」という声もある。

・発信頻度が多いので、特に見てほしいメッセージが目立つとよい。

# アンケートの調査概要⑤

## ・今後の関わり(理事以外)

「積極的に関わりたい」「関わりたい」…9割

「関わりたいくない」…0

「楽しい」「学ぶ」「出来る」「参加」「一緒」「中海」「自然再生」といったキーワード

## ・いい関係のために必要なこと(理事以外)

「イベント」「人」「交流」「参加」といったキーワード

・「食を広めよう会」のような機会

・異業種の人たちが一緒にできるイベント

・地元の人たちとの接触、研究者との交流、関連企業との交流

・オープンに交流・議論・情報交換ができる仕組みや雰囲気

## アンケート：今後関わりたい理由（理事以外）

楽しい, 学ぶ, 出来る, 参加, 一緒といったキーワードが多い



### <コメントの例>

- 中海の自然再生に今後も携わっていきたいため
- 宍道湖中海の自然環境に関わる代表的なNPOとして支援したいから。
- 活動の理念等に共感を持つため。活動が楽しいものであるため
- 楽しいから、生きがいになるから

# アンケート：いい関係のために必要なこと（理事以外）

イベント, 人, 交流, 参加といったキーワードが多い



## <コメントの例>

- 「中海・宍道湖の食を広めよう会」のような機会はとても大切だと思います
- まずはどんな人がなぜ自然再生センターで活動しているのか、理解できるといいなと思います
- 異業種の人たちが一緒にできるイベント（会議やフォーラムではない野外活動がいいと思う）
- 地元の人達との接触 研究者との交流 関連企業との交流
- オープンに交流・議論・情報交換ができる仕組みや雰囲気の維持に対する意識と継続

# アンケートの調査概要⑥

- ・イベント参加者 \* 赤…相対的に高い 黒…標準 青…相対的に低い  
満足度8.4 親しみ度7.8 発信十分度7.9 発信満足度8.3
- ・活動支援者  
満足度8.5 親しみ度8.5 発信十分度8.3 発信満足度8.4
- ・行政関係者  
満足度7.8 親しみ度7.7 発信十分度6.9 発信満足度7.8
- ・賛助会員(個人)  
満足度8.3 親しみ度8.5 発信十分度7.6 発信満足度7.4
- ・賛助会員(団体)  
満足度8.0 親しみ度8.0 発信十分度7.8 発信満足度7.5
- ・正会員  
満足度8.4 親しみ度7.8 発信十分度8.5 発信満足度8.5

# ステークホルダーの評価を受けて・まとめ

イベント参加者…自然・参加者・センターとの一体感

活動支援者…**組織運営**からの学びの質・量（NPOのお手本）

行政関係者…取組の**幅広さ・頻度・量** センターと市民の一体感

賛助会員……**安定**した活動基盤のもと、中海・宍道湖の**環境保全**

正会員………地元の人、研究者、専門家などとの**交流・かかわり**

**\*活動支援者の評価は高いが、行政関係者の評価が相対的に低い。**

多様な世代の市民の参加を促し、活動をゆたかに広げるとともに、  
様々なステークホルダーとの関係性を深化させていきたい！

**ご協力を！** 認定10周年記念  
寄付キャンペーン（2月末まで）

**\*SDGsを媒介に、学校・企業との連携を！**

**\*中海・宍道湖の環境保全を行政との連携で！**